

平成24年6月30日

各位

株式会社 徳 ・ 株式会社 傳六
ノリックス株式会社 ・ 有限会社 和公
代表取締役 鷲岡和徳

前略、今月も業務に専心いただきありがとうございます。

先日ある講演会で「自分の人生の主人公は自分しかない」という話を聞いてきました。一見普通のことを言っているように思いますが徳グループと一緒に仕事をされている皆様はこの「主人公」という言葉に対してどのようなイメージを持たれるでしょうか。当然のことながら人それぞれ主人公のイメージは違うと思います。「主人公」には目指したいワクワクする未来や希望があります。私も含めすべての人が持ち合わせているものです。

私たちは仕事中心の生活の中で気づかぬうちに脇役に徹してしまい自分の人生のなかでも主体的に生きていくことを忘れてしまいがちです。では、社会や会社の中で主体的に活動している人とはどんな人でしょうか。答えは単純明快で社会や会社のルールを守りながら「今までのやり方を変えて、自分で考えて行動し周囲を巻き込んで社会に新たな価値を生み出す人」です。このような人には自分で物事をきめることができる「自由」があり、仕事に誇りややりがいを感じることができます。IT化とグローバル化が進んだこの時代では今までの「決められたことを正しく行う」だけの人は必要とされません。「決められたことをきちんとこなすだけの仕事」であれば「コンピューター」や「機械」「人件費の安い国の人々」が代わりにしてくれます。

逆を言えばそのような仕事しか出来ない方は仕事を機械や外国人に取って替わられるか、限りなく安い給料で働かなければならなくなります。よしんば仕事や給料があつたとしても「言われたことを言われたように実施する」ということが仕事のミッションになるということは、そこには「自由」も「満足」も「やりがい」も「喜び」も「生きがい」もないということになります。

つまり自分の人生の主人公になれないということにつながります。弊社で言えばおいしい料理を提供するために、お客様が喜ぶ接客をするために「どうしたらもっと美味しくなるのか」「自分の行動の角度を変えることができないのか」「同業の他店はどうしているのか」をもっと深く、もっと広く考えるということです。

そのために最も必要な個人の要素はいちずに打ち込む気持ち、すなわち「熱意」だと思います。能力はあるが、行動が伴わない人や、口では熱意溢れる人でも、行動が伴わない人がおります。なぜ、行動が伴わないのかと言えば熱意の根源は、「ものの考え方」「志」「使命観」です。いい仕事をする。お客様に喜んで頂くという「使命観」が自らを駆り立てて、熱意を生み、その気持ちが言葉に現れ、勤務態度や行動に現れます。各位が使命感を持って仕事に向き合い自分の人生の主人公となり素晴らしい未来を切り開いて頂くことを心から望みます。

【徳の経営理念】

「私たちはお客様のために常に新しいことに挑戦し、食生活に新たな価値を創造しつづけます。」

【徳のモットー】

「一膳入魂」～うまい料理は世の為、人の為～

すべては自分のために。

すべてはお客様のために。

すべては会社のために。

すべては社会のために。

来月も一緒に頑張りましょう

草々